

宮崎市立西池小学校の学力向上への取組

1 平成 17 年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査結果からの課題

- 国語において「漢字の書き」の定着が不十分である。
- 算数は図形の性質や作図等、図形領域の理解が不十分である。
- 理科では「観察・実験の技能・表現」の能力が十分身に付いていない児童が多い。

(2) 意識調査結果からの課題

- 読書の習慣化を一層図る必要がある。
- 早寝早起きや毎日の食事（特に朝食）など、きちんとした生活リズムが確立していない児童も多い。
- 地域での活動や行事に積極的に参加している児童が半数以下で地域との関わりが薄くなっている。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

本校は、平成 18 年度学校経営の重点を「夢を育み、生きる自信と誇りを持たせる学校づくり」とし、それを具現化するための重点課題を 5 つ設定し日々の教育活動を展開している。5 つの重点課題のうち学力向上に係るものとして「楽しさを味わい、分かる・できる授業の実現」「教師の指導力の向上」がある。それぞれの具体的な内容は下記の通りである。

<p style="text-align: center;">「楽しさを味わい、分かる・できる授業の実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な学習習慣・学習訓練の徹底 ○ 基礎学力の定着と向上 ○ 確かな学力を目指す授業の工夫 ※ それぞれの内容で数値目標設定
--

<p style="text-align: center;">「教師の指導力の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 月 3 回の職朝時の 3 分間研修 ○ 校内での研究サークル設置
--

(2) 教育課程内の取組

① 一単位時間の指導過程の工夫

毎時間ではないが、45 分の中で基礎・基本の徹底や一層の習熟を図る時間を確保するようにしている。(漢字・計算ドリル、漢字・計算テスト、個別に繰り返し指導等)

② 指導形態の工夫

3 年生以上の算数で、習熟度別の少人数指導を実施し、個に応じた指導を展開している。

③ 校内研究での取組

昨年度より「学ぶ楽しさを味わい、豊かに表現できる子どもの育成」を研究主題に掲げ、国語科の指導法の研究に取り組んでいる。本年度は、自分の考えを自分の言葉で表現できる力を更に磨き、文章を読み深める力を身に付けさせる指導の在り方に焦点を当てて研究を進めている。また、教員の主体的な研究とするため、各学年で研究授業を 2 回以上実施できるよう研究計画を立て、より実践的な研究となるよう配慮している。一連の実践の中で、事前・事後の授業を各学年で実施するなど、意欲的な研究への取組が見られるとともに、国語科における指導力の向上も図られている。

④ 予備時数の効果的な活用

本年度は、予備時数を活用し、国語、算数を中心に基礎・基本の徹底のために繰り返し指導する時間や学習の充実を図る時間を確保している。このことにより特に内容の難しい単元において、児童にとってゆとりある学習指導が展開できている。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	280 ⑧	290 ⑩	245 ⑩	243 ⑧	189 ⑨	178 ③
社会	／	／	70	85	90	103 ③
算数	119 ⑤	155	160 ⑩	155 ⑤	159 ⑨	153 ③
体育	90	90	90	94 ④	92 ②	93 ③

教科欄の○数字分を予備時数から確保

平成 18 年度 教育課程編成表（一部抜粋）

(3) 教育課程外の取組

① 朝の時間の活用（週時程の工夫）

本校は、毎週月曜日の朝（8:15～8:25）を読書活動、毎週水曜日の朝（8:15～8:35）を校内LANを活用した職員朝会とし学習の時間に当てている。

○ 朝の読書

この時間は、本校の学校支援ボランティア「お話の部屋」による読み聞かせを全学級で実施している。毎週のこの時間を楽しみにしている児童が多く、読書意欲の向上にもつながっている。

○ LAN職員朝会時の学習

普段の朝自習では、教員は児童につくことができず一人一人の児童に必要な指導が十分できないことも多い。そこで、職員朝会を校内LANで済ませることで、学級の児童の実態に応じた課題をさせることができるようになった。この時間を活用し、個別指導を充実させ、基礎・基本の一層の定着を図っているところである。特に本年度は、校内研究とも関連させ、第1、4週を学級独自の課題、第2週を読書（教員も）、第3週を国語と設定し実践している。

(4) 保護者・家庭・地域との連携

① 家庭との連携

家庭学習の仕方についての資料を家庭に配布するとともに、学年通信・学級通信、懇談等を活用し、家庭学習を習慣化することの大切さについて説明した。また、本校の連絡帳「西池の子」の中に家庭学習時間や内容を記録することで保護者も自分の子どもの家庭学習により関心を示すようになり、保護者と学校が一体となつての学力向上への取組が見られるようになった。

② 学校図書館の改装（学校支援ボランティア「お話の部屋」との連携）

昨年度末「読む楽しさと知る喜びのあふれる快適で魅力的な学校図書館づくり」を目的に、「お話の部屋」の保護者が中心となつて、学校図書館の改装を行った。保護者や職員及び児童、そして宮崎大学学生などがボランティアで改装工事を行い、明るく魅力のある図書室へと生まれ変わった。更に、本年7月にはエアコンも設置され、快適に読書ができる環境が整った。そのため、本年度は、昨年度と比較して図書の貸出数が飛躍的に増えている。

改装前の図書室



改装後の図書室



平成17年度と18年度の図書貸出数

	平成17年度	平成18年度
5月	2,135冊	4,389冊
6月	2,879冊	5,933冊
7月	1,754冊	2,715冊
9月	1,620冊	3,726冊

3 成果と課題（今後の取組を含む）

(1) 成果

- 練習問題や小テスト等繰り返し指導を徹底し、習熟度別少人数指導など指導形態を工夫することで個に応じた指導が充実し、基礎・基本を確実に身に付ける児童が増えた。
- 校内研究を通して、国語の授業の進め方等教師自身が得るものが多く、実践的な指導力の向上が見られた。
- 読書指導や図書室改装により読書量が大幅に増え、読書を好きになった児童が増加した。

(2) 課題

- 学力面の2極化が顕著になってきている。基礎・基本が身に付いていない児童への繰り返し指導を徹底するとともに、指導の在り方を検討する必要がある。
- 家庭学習への取組に温度差が見られる。学年・学級通信や懇談等を活用し、家庭学習を習慣化することの大切さについて説明し、学力向上に関して保護者の啓発を更に図る必要がある。